

## 酷暑が続いた日本

今年の日本の夏は、一段と厳しい酷暑でした。7月30日は兵庫県丹波市で 41.2℃を記録し、5年ぶりに国内最高気温を更新しました。しかし、その記録はわずか6日で更新されています(8月5日に群馬県伊勢崎市で 41.8℃を記録)。また、都心部の大阪市では35℃以上の猛暑日が累計44日を観測しました(9月10日現在)。近年の日本は1年のうち1か月ほど猛暑日が続く傾向になっていることが分かります。

## 酷暑の原因

このように、日本で酷暑が続いたのは次の4つの原因が考えられます。

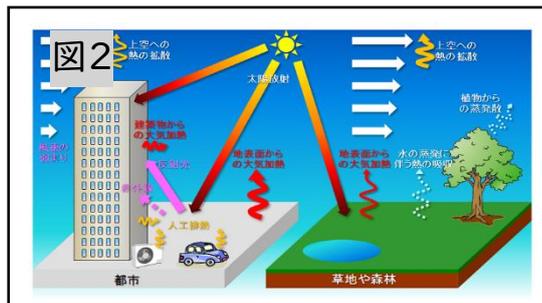
### 【1つ目の原因:ダブル高気圧】

暖かい空気を持つ上空5000m付近にある太平洋高気圧と、上空1万5000m付近にあるチベット高気圧が日本付近に張り出してきて、この2つの塊が2層に重なりました。2つの高気圧に覆われている地域は強い下降気流が発生し、雲が形成されにくくなるため、強い日差しと酷暑を引き起こしました。(図1参照)



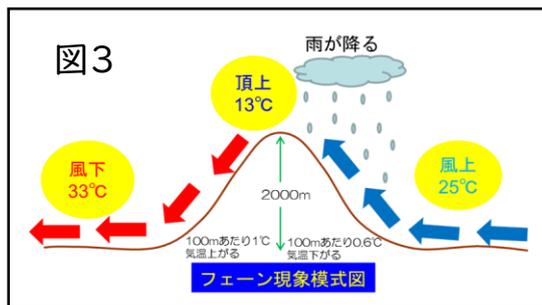
### 【2つ目の原因:ヒートアイランド現象】

ヒートアイランド現象とは、主に都心部でほかの地域より暑くなる現象です。都心に多くあるアスファルトやビルが大気中の熱を蓄え、人や車からの排熱によって都心の気温が下がりにくくなることで大阪のように人口過密の地域で酷暑を引き起こされます。(図2参照)



### 【3つ目の原因:フェーン現象】

フェーン現象とは、湿潤な空気が山を越えて反対側に吹き下りたときに、付近の気温が上昇することです。丹波市や伊勢崎市のように、山から風が下りてくる地域で高温の空気が流れて酷暑を引き起こしました。(図3参照) 【参考】 気象庁 <https://www.jma.go.jp>



### 【4つ目の原因:地球温暖化】

地球温暖化は、人間の活動で排出される温室効果ガス、特に二酸化炭素が大気中に溜まり続けることで、地球全体の気温が温められ気温上昇の大きな要因となっています。これにより、世界中で豪雨の頻発化やそれに伴う感染症の流行、異常高温による森林火災、砂漠化の進行、降雪量の増加などの異常気象や災害を引き起こしていると言われています。

## 引き続き熱中症対策を！

この暑さは9月下旬から10月上旬にかけて続くと予想されるので、引き続き熱中症に気を付けましょう。熱中症対策として涼しい場所に避難することやこまめに水分、塩分を摂取すること、適度に休憩をとることを行うようにしましょう。舞子高校では10月3日に体育祭が行われるので、当日はタオルや帽子を活用しましょう。10月上旬まで対策をして暑さを乗り越えましょう。